

# 2018年3月期 本決算 2019年3月期 業績予想 説明資料

---

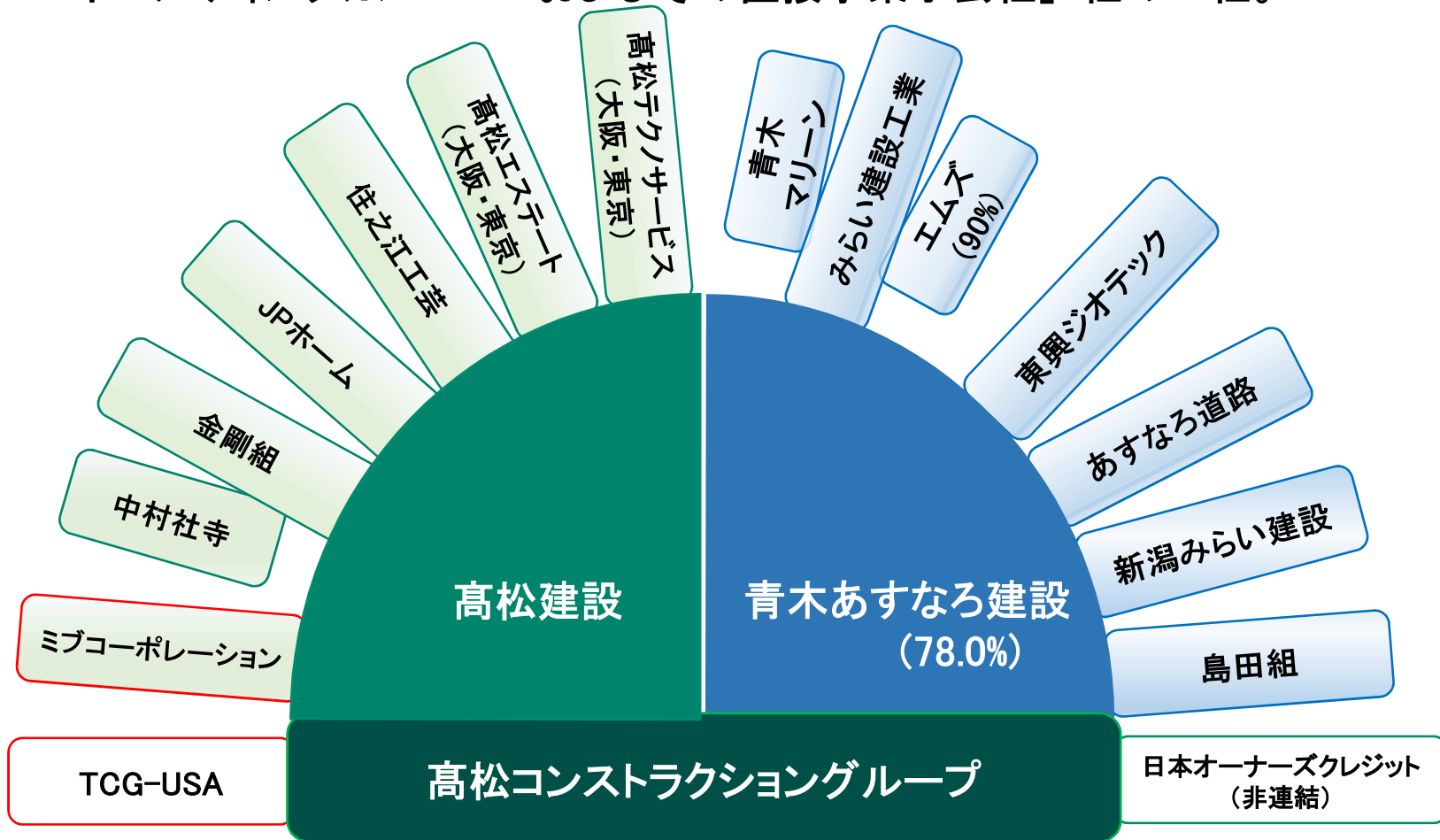
株式会社高松コンストラクショングループ

証券コード:1762

本資料に記載されている将来に関する記述は、本資料作成日現在で入手可能な情報にもとづいて作成したものであり、実際の実績等は今後様々な要因によって異なる可能性があります。また、当資料は投資家判断の参考となる情報提供を目的とするものであり、当社株式の購入や売却を勧誘するものではありません。

# 高松コンストラクショングループ

1. 2019年3月期から、ミブコーポレーションとTCG-USAが連結対象に。
2. 「グループ19社」⇒「グループ21社」  
 「高松建設グループ」10社、「青木あすなる建設グループ」8社、  
 「ホールディングカンパニーおよびその直接事業子会社」3社の21社。



持株関係は、図が接している会社が親会社。持株比率は表示ない限り100%。

# 高松コンストラクショングループの特徴

## M&Aを通じて成長

\*全て3月末時点の社数および売上高を記載

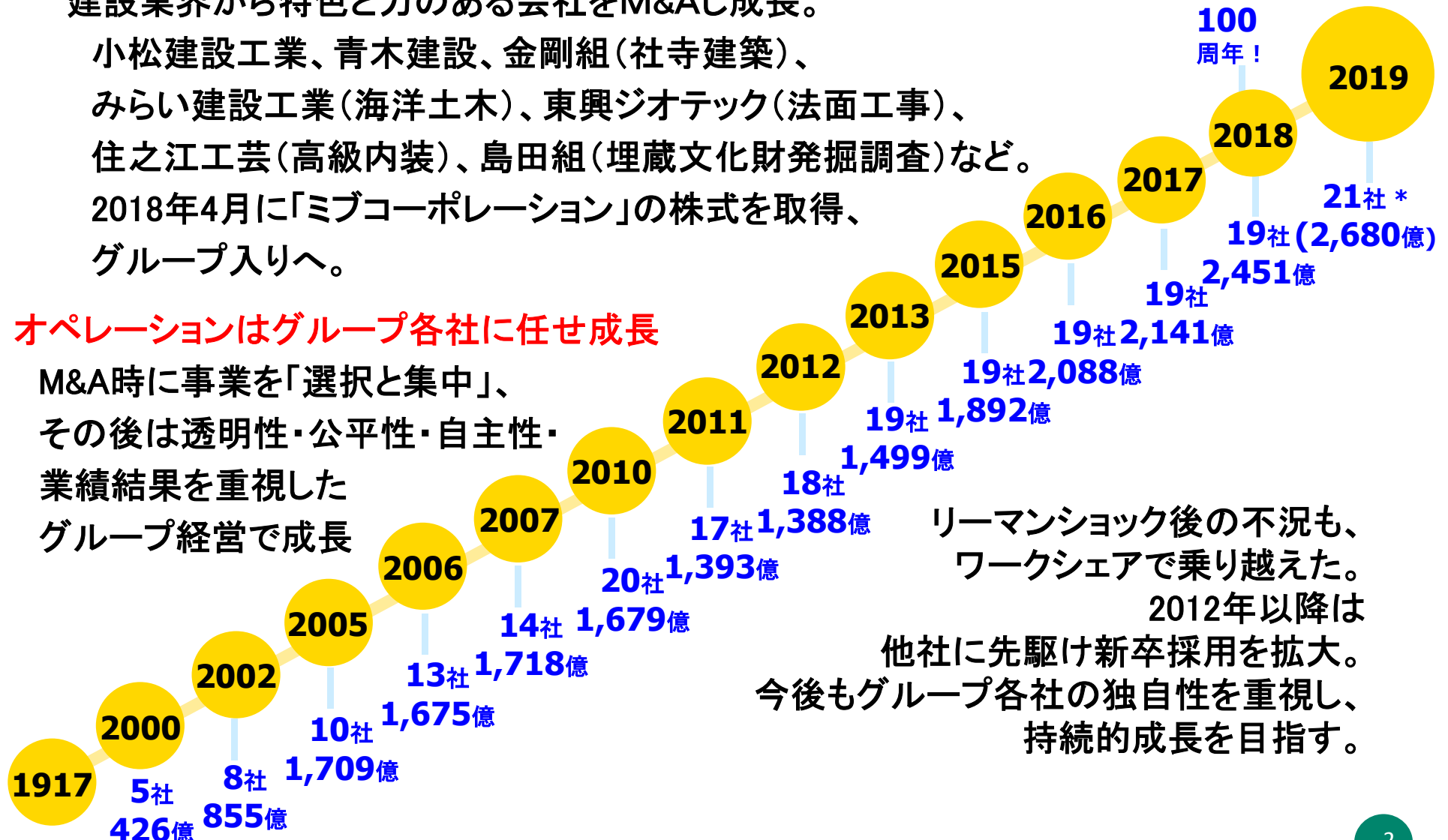
建設業界から特色と力のある会社をM&Aし成長。

小松建設工業、青木建設、金剛組(社寺建築)、  
みらい建設工業(海洋土木)、東興ジオテック(法面工事)、  
住之江工芸(高級内装)、島田組(埋蔵文化財発掘調査)など。  
2018年4月に「ミブコーポレーション」の株式を取得、  
グループ入りへ。

## オペレーションはグループ各社に任せ成長

M&A時に事業を「選択と集中」、  
その後は透明性・公平性・自主性・  
業績結果を重視した  
グループ経営で成長

リーマンショック後の不況も、  
ワークシェアで乗り越えた。  
2012年以降は  
他社に先駆け新卒採用を拡大。  
今後もグループ各社の独自性を重視し、  
持続的成長を目指す。




# 2018年3月期 本決算

---

# 業績(連結)の推移

1. 受注: 対前期△0.6%↘      売上高 : 6期連続増収、4期連続過去最高。  
 2. 営業利益 : 5期連続増益、3期連続過去最高。  
 3. 親会社株主帰属当期純利益 : 対前期+20.6%↗  
 4. 期末繰越高 : 2,756億円、続伸。

(過去最高=   
 単位:億円  
 億円未満切捨)

項目	2014/3期	2015/3期	2016/3期	2017/3期	2018/3期	
					増減率(%)	
受注高	↗ 1,938	↗ 2,256	↗ 2,377	↗ 2,564	2,548	△0.6
売上高	↗ 1,777	↗ 1,892	↗ 2,088	↗ 2,141	↗ 2,451	14.5
営業利益 (営業利益率%)	↗ 65 (3.7)	↗ 71 (3.8)	↗ 104 (5.0)	↗ 129 (6.0)	↗ 136 (5.6)	5.4
営業外収支	1	0	0	△0	0	-
経常利益 (経常利益率%)	↗ 66 (3.8)	↗ 72 (3.8)	↗ 104 (5.0)	↗ 129 (6.0)	↗ 137 (5.6)	6.0
特別損益	22	20	△6	△9	△11	-
親会社株主帰属 当期純利益 (当期純利益率%)	↗ 61 (3.5)	↗ 63 (3.4)	57 (2.8)	↗ 65 (3.1)	↗ 79 (3.2)	20.6
期末繰越高	1,582	1,947	2,235	2,659	2,756	3.7

# グループ別 受注高・売上高・売上総利益（連結）

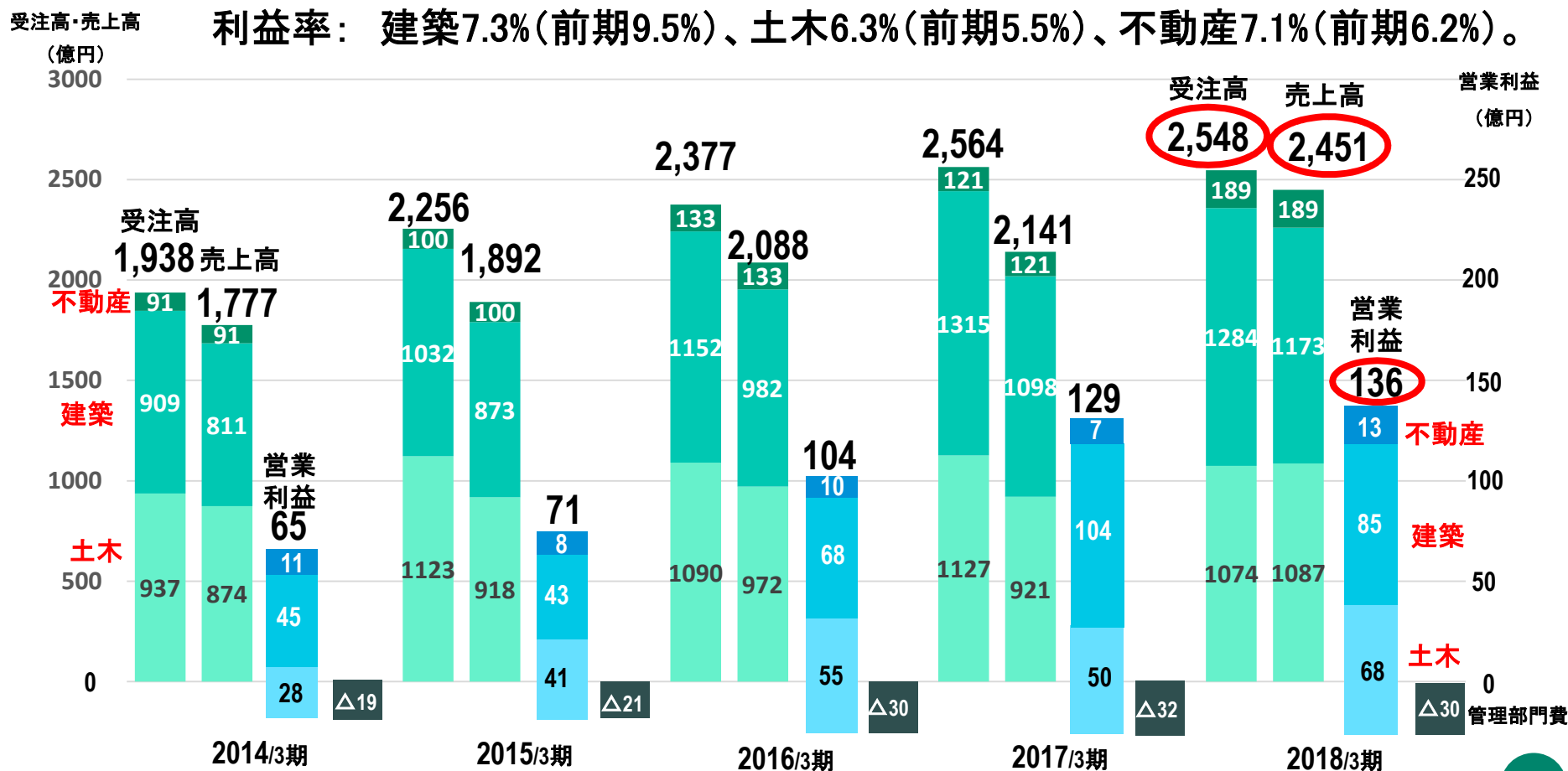
1. 受注高： 2,548億円、△0.6%↘ 土木・建築とも↘ 不動産は大幅↗
2. 売上高： 2,451億円、14.5%↗ 土木：18%↗ 青木あすなる建設G好調。建築：7%↗ 高松建設G好調。
3. 営業利益： 5.4%↗ 土木： 35%↗ 売上増に伴い大幅増。建築： 前期の高採算案件等の影響で反動減。

高松コンストラクショングループ				受注高	売上高	営業利益
高松建設グループ				18/3 (17/3)	18/3 (17/3)	18/3 (17/3)
青木あすなる建設グループ				1,074 (1,127)	1,087 (921)	68 (50)
				△5%	+18%	+35%
土木				1,284 (1,315)	1,173 (1,098)	85 (104)
				△2%	+7%	△18%
建築				189 (121)	189 (121)	13 (7)
				+56%	+56%	+80%
不動産				2,548 (2,564)	2,451 (2,141)	136 (129)
				△0.6%	+14.5%	+5.4%
受注高 18/3 (17/3)	1,064 (960)	+11%	1,486 (1,611)	△8%	2,548 (2,564)	
売上高 18/3 (17/3)	923 (763)	+21%	1,534 (1,379)	+11%	2,451 (2,141)	+14.5%
営業利益 18/3 (17/3)	70 (62)	+13%	76 (74)	+3%	136 (129)	+5.4%

4. 高松、青木あすなる、みらい、東興ジオテックの4社で受注の88%、売上の87%、営業利益の93%を占める。

# セグメント別 受注高・売上高・営業利益(連結)

- 【受注】 2,548億円、対前期△0.6%↘。日建連96社の△0.5%↘と同程度。  
 建築：△30億円↘ 土木：△53億円↘
- 【売上】 2,451億円。全セグメント↗（建築 +74億円↗ 土木 +166億円↗ 不動産 +68億円↗）
- 【営業利益】 建築：85億円、対前期△18億円↘ 土木：68億円(対前期 +17億円↗)  
 不動産：13億円、対前期 +6億円↗  
 利益率：建築7.3%(前期9.5%)、土木6.3%(前期5.5%)、不動産7.1%(前期6.2%)。



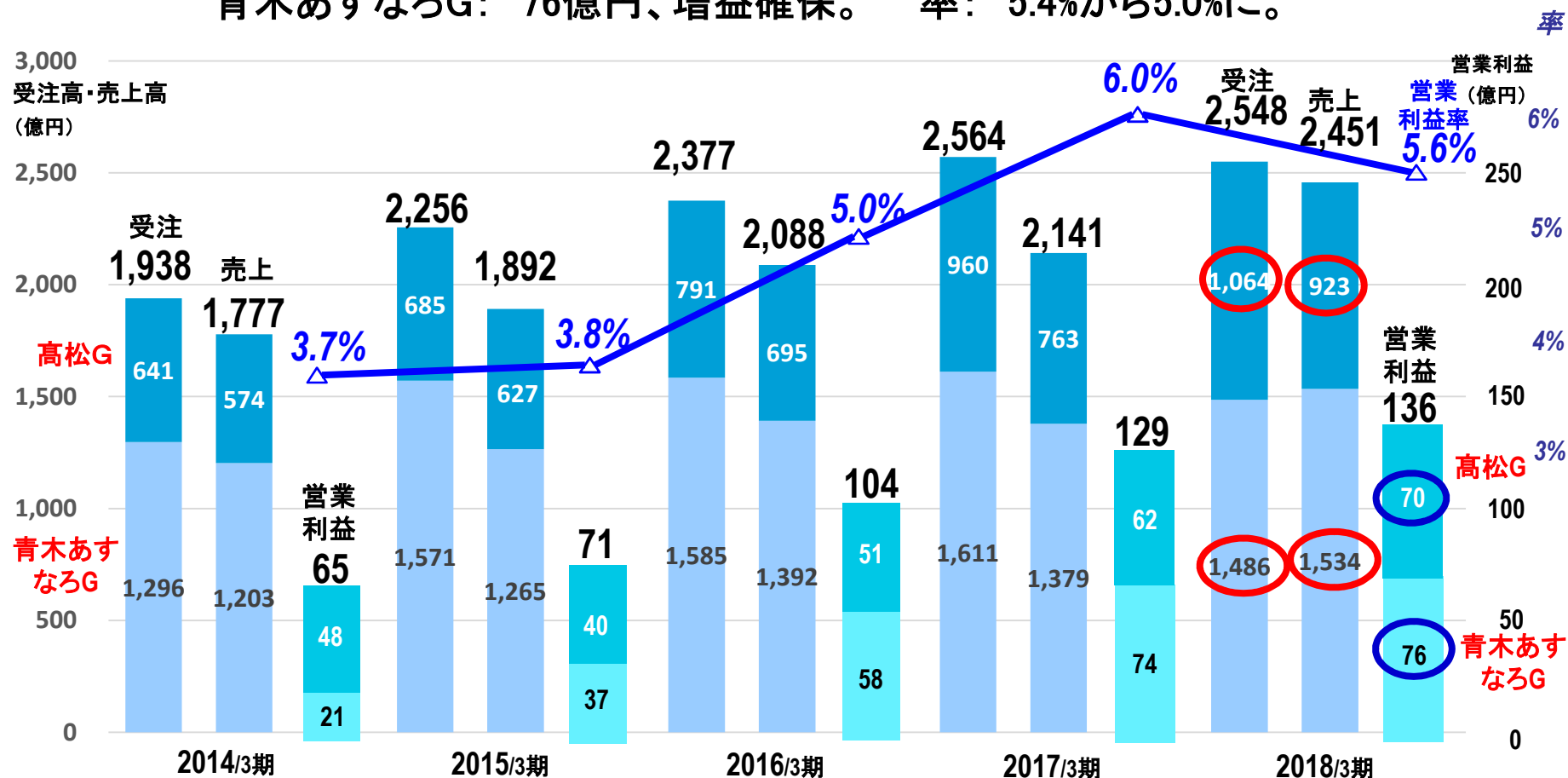


# グループ別 受注高・売上高・営業利益(連結)

【受注】 高松G : 1,064億円、10.8%↗ 青木あすなるG : 1,486億円、△7.8%↘

【売上高】 高松G : 923億円、20.9%↗ 青木あすなるG : 1,534億円、11.2%↗

【営業利益】 高松G : 70億円。 率: 8.2%から7.7%へ。  
 青木あすなるG: 76億円、増益確保。 率: 5.4%から5.0%に。

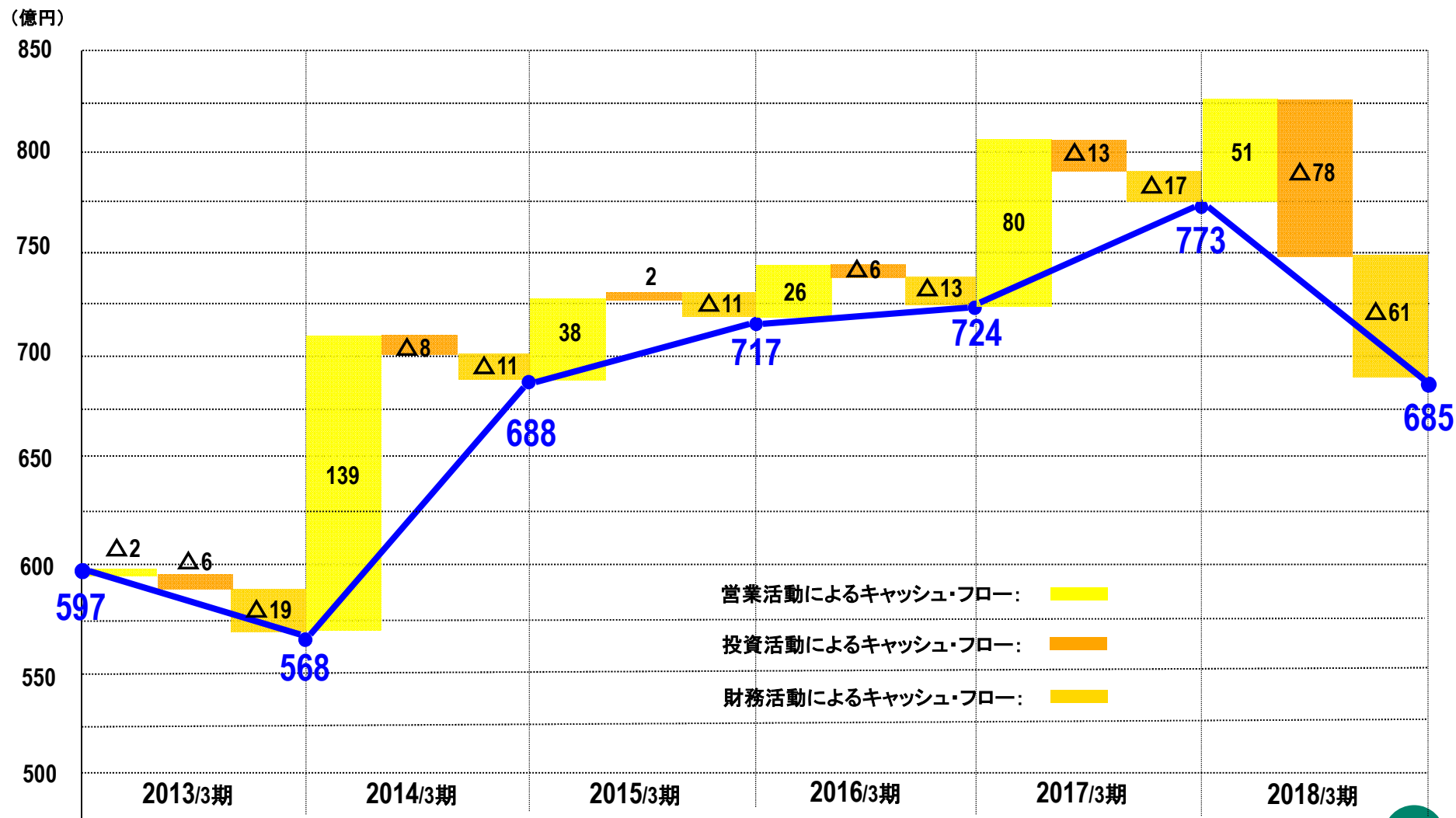


各数値が合算値と合わない部分は連結相殺・本社経費があるため。



# キャッシュ・フローと現預金残高(連結)

1. 17年3月末: 773億円、18年3月末: 685億円、 $\Delta 88$ 億円 $\searrow$
2. 固定資産取得(71億円、東京オフィスビル購入など)、自己株取得(32億円)等による。



# 貸借対照表(連結)

1. 資産合計⇒ 1,849億円、対前期+39億円↗ +2.2%↗。 現預金↘ 有形固定資産↗

2. 純資産合計⇒ 1,139億円、対前期34億円↗ +3.1%↗。

(単位:億円)

勘定科目	2017/3期	2018/3期	増減額
流動資産	1,577	1,543	△34
現金預金	773	685	△88
受取手形・完成工事未収入金等	602	681	78
販売用不動産	71	75	4
未成工事支出金	11	7	△3
不動産事業支出金	33	7	△25
未収入金	62	52	△9
繰延税金資産	15	21	6
その他	10	12	2
貸倒引当金	△3	△2	1
固定資産	231	305	74
有形固定資産	136	199	63
無形固定資産	3	4	1
投資その他の資産	92	101	9
投資有価証券	56	64	7
繰延税金資産	12	14	2
その他	31	25	△6
貸倒引当金	△9	△2	6
資産合計	1,809	1,849	39

勘定科目	2017/3期	2018/3期	増減額
流動負債	576	582	6
工事未払金	297	325	28
未払法人税等	35	23	△11
未成工事受入金	129	110	△19
その他	114	122	8
固定負債	127	126	△1
退職給付に係る負債	106	106	△0
繰延税金負債	2	2	0
その他	18	17	△1
負債合計	703	709	5
株主資本	968	1,000	31
資本金	50	50	-
資本剰余金	2	3	1
利益剰余金	958	1,021	62
自己株式	△42	△74	△31
その他包括利益累計額	△5	△3	1
非支配株主持分	142	143	1
純資産合計	1,105	1,139	34
負債純資産合計	1,809	1,849	39

# 2019年3月期 業績予想

---

本資料に記載されている将来に関する記述は、本資料作成日現在で入手可能な情報にもとづいて作成したものであり、実際の実績等は今後様々な要因によって異なる可能性があります。また、当資料は投資家判断の参考となる情報提供を目的とするものであり、当社株式の購入や売却を勧誘するものではありません。

# 2020年3月期に向けての市場環境認識と高松コンストラクシヨングループの成長イメージ (中計資料・2017/5開示、赤字部分のみ修正)

## 環境認識

### プラス要因

- 国内建設投資額は**53兆円**を上回る水準を3年は持続すると見る。
- 東名阪の世帯数は高水準を持続、新築住宅着工も好調持続を予想。
- 首都圏の賃貸マンション建設は当面好調が継続すると見る。

### マイナス要因

- 国内建設投資は中計終了年度の2020年以降、縮小の見通し。人口も縮小トレンド加速。
- 建設労働者の減少に伴う原価の上昇トレンド。
- 賃貸マンション需要が金利上昇・空室率UPなどで急速にしぼむリスクあり。
- 新設工事件数の減少。

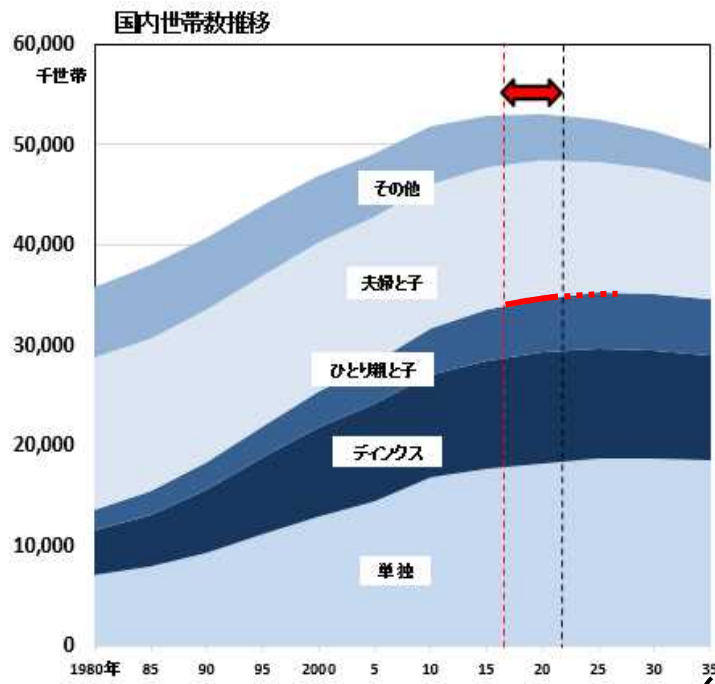


## 高松コンストラクシヨングループとしての成長イメージ

1. 好調な首都圏の賃貸マンションを成長の中核とし、受注拡大・持続的成長を可能にする体制構築を目指す。
2. その反面、中長期的に市場が現状並みから縮小すると考えられる土木・官公庁関連事業は、堅実なシェアアップ・高利益率の持続を目指す。
3. 上記が実現できる経営基盤も整備。

# グループビジョンと中期経営方針：高松建設グループ

1. 高松建設は、高松コンストラクショングループの母体となった中核会社。
2. 高松建設はお客様に徹底的に寄り添ったビジネスモデルで地位を確立。
  - ① 土地有効活用ビジネスの先駆的存在（1960年代より確立）
  - ② 富裕層や法人企業への提案型営業  
（税務・法務・土地購入・建築・賃貸・維持管理・修繕でのトータル提案）
  - ③ 駅前などの好立地にランドマーク的マンションを建設、高入居率・高賃料物件を提供
3. 2018/3期は、3期連続で増注・増収・増益を達成。
4. 建築累積棟数は、首都圏 1,370棟、近畿・名古屋圏 3,250棟、計4,620棟。



5. 日本の世帯数は中計期間中はピーク値の継続が予想され、単身、ひとり親と子世帯、デイクス、はさらに増加が予想されている。

6. また、この世帯数のピーク値の増加ないしは継続は、東名阪、特に東京で顕著。  
→ 2017年：首都圏4都県、愛知、大阪、福岡のみ転入超過。（総務省人口移動状況）

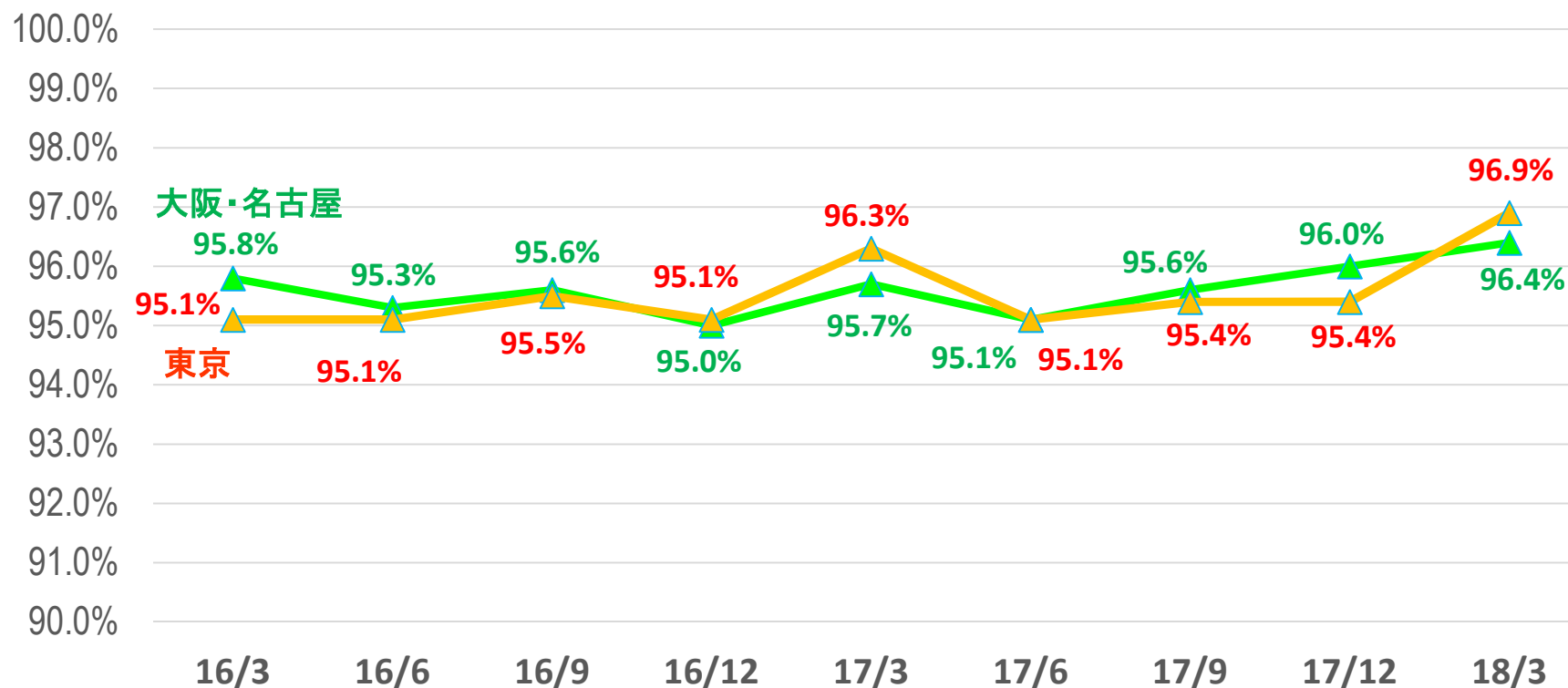
7. 建築市場としても、首都圏は近畿圏の約3倍。

8. 今後もピークが継続するとみられる東名阪の少人数世帯が、高松建設の主力施工案件である賃貸マンションのターゲット入居者。

(中計資料・2017/5開示、赤字部分のみアップデート)

# 高松エステートにおける高松建設施工物件の入居率

1. 東京・大阪ともに、入居率は18年3月も95%以上を維持している。
2. 東名阪・都心部の賃貸マーケットは底堅い動きが継続していると考える。

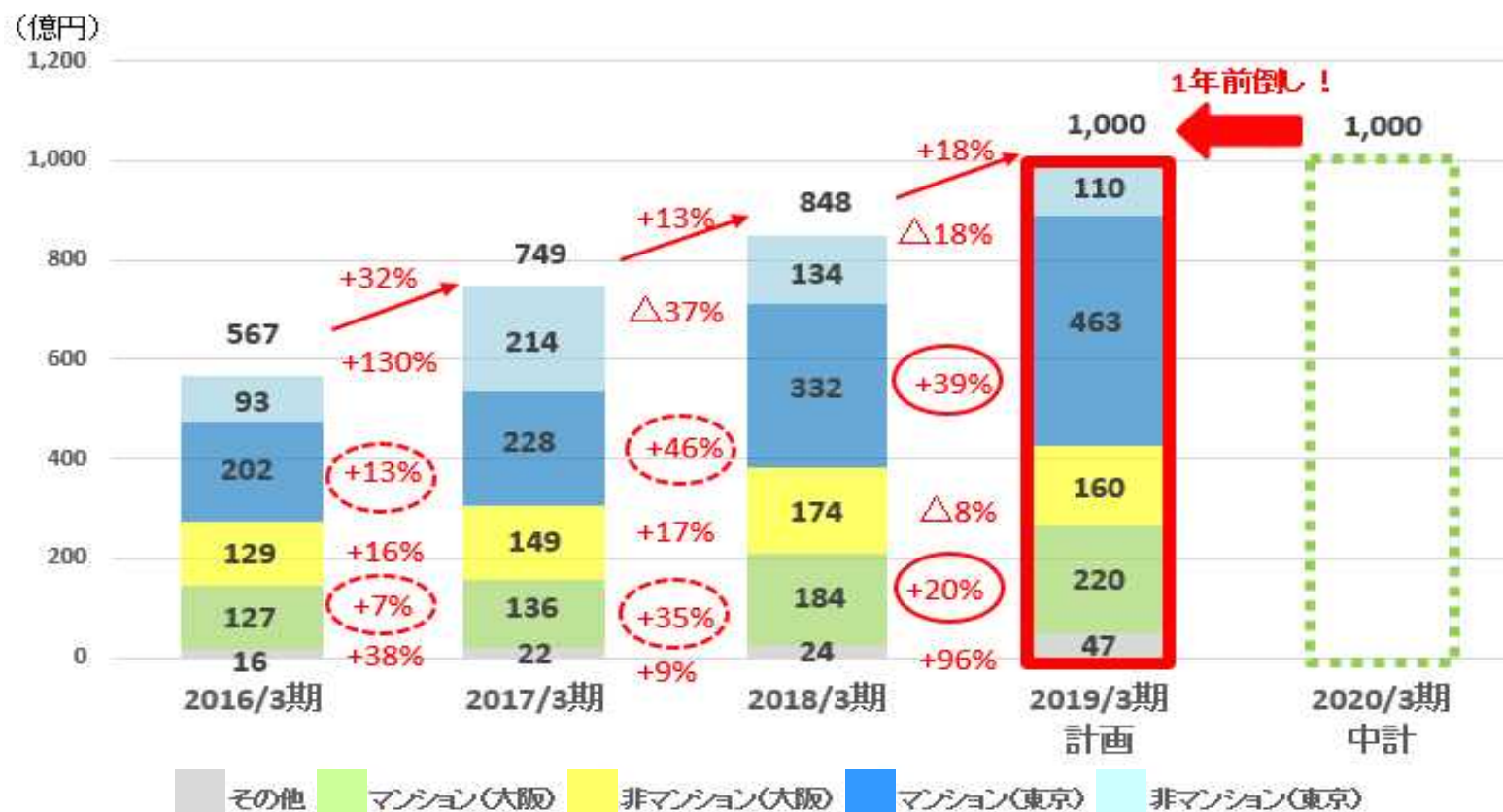


定義 「大阪・名古屋」=大阪府、京都府、兵庫県、名古屋市  
「東京」=東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県  
「入居率」=各四半期末時点の高松建設施工物件の入居戸数  
÷各四半期末時点の高松エステート(大阪、東京)が  
管理している高松建設施工物件の総戸数



# 高松建設の受注実績と今後の見通し

1. 2018年3月期の高松建設の受注は13%↑
2. 首都圏、近畿圏ともにマンションが大きく伸びた。
3. 2019年3月期は受注1,000億円(+18%↑)、売上高800億円(+14%↑)を目指す。  
⇒ 2020年3月期の高松建設単体・中計目標を一年前倒しで実現できる見通しとなった！





# ミブコーポレーション、TCG-USAのグループ入りについて

## ■ミブコーポレーション

事業内容：首都圏における不動産売買および仲介

業績：売上高33億5000万円、経常利益2億8000万円

東京城南地区、特に目黒区、世田谷区、渋谷区に強力な地盤。

首都圏の土地活用ビジネスが成長の要の高松建設グループは、ミブコーポレーションの営業情報を活用、首都圏での受注拡大を目指す。

## ■Takamatsu Construction Group USA Inc.

事業内容：海外での高松建設ビジネスの展開を検討。

ニューヨーク マンハッタンに設立。

高松建設を中核としたTCGグループのビジネスモデルの展開が海外でも見込めるか等にチャレンジ。

当面は不動産投資・運用主体に検討。



ミブコーポレーション 本社外観



ミブコーポレーション 学芸大学店 外観

2社ともに、2019年3月期の受注・売上高に同年ベースで連結され、受注・売上高の増加に貢献予定。

# グループビジョンと中期経営方針：青木あすなろ建設グループ

1. 青木あすなろ建設グループは、東証一部上場企業の青木あすなろ建設を中心とした8社で構成。
2. 青木あすなろ建設単体での土木建築比率は受注高・売上高ともほぼ5:5。
3. 連結ベースでは、海洋土木に強みを持つみらい建設工業・青木マリーン、法面保護等が得意な東興ジオテック、舗装工事のあすなろ道路・新潟みらい建設、リノベーション工事のエムズ、遺跡発掘・調査の島田組が揃い、土木：建築が7:3と土木が中心。
4. 研究開発にも注力。（「既設橋梁の耐震性向上技術の研究」「耐震天井工法(AA-TEC工法)」「壁面走行ロボット」「無人化遠隔施工における操作ガイダンス」等）
5. 青木あすなろ建設単体では、前期に好採算建築案件が完成した反動等により利益は微減となったものの、青木あすなろ建設グループ連結では過去最高の営業利益を更新し、2018年3月期の高松コンストラクショングループの好決算に大いに貢献。2019年3月期は売上高1,570億円を目指す。
6. i-コンストラクションへの積極的な対応による生産性向上と事業領域の拡大を目指す。

(中計資料・2017/5開示、赤字部分のみアップデート)

18年3月期 代表事例 (1)

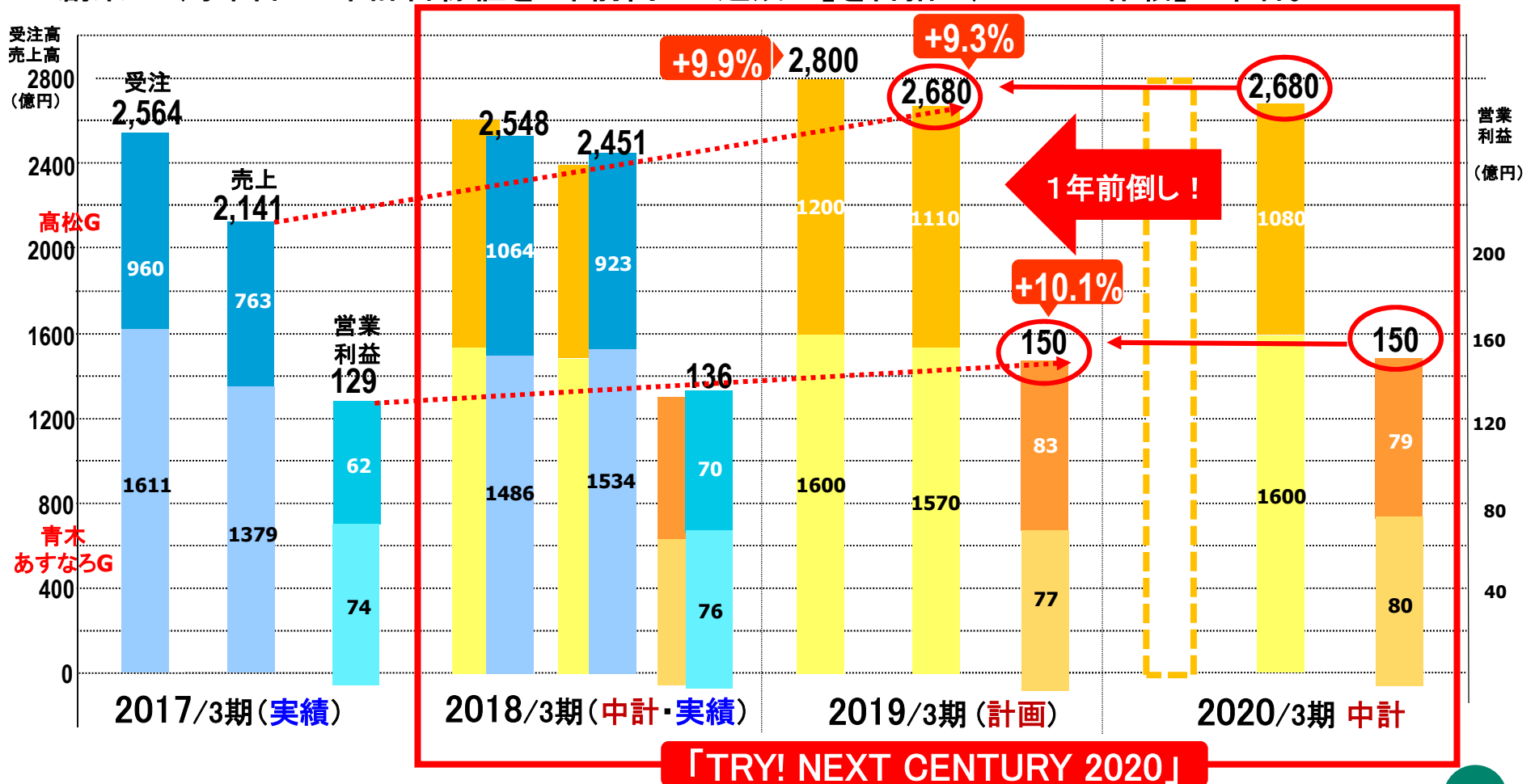


18年3月期 代表事例 (2)



# 中計、2018年3月期実績と2019年3月期の目標について

1. 売上高 中計： 2018年3月期： 2,400億円、2020年3月期： 2,680億円。  
2018年3月期実績： 2,451億円、高松建設堅調。 2019年3月期の目標を2,680億円に。
2. 営業利益 中計： 2018年3月期： 133億円、2020年3月期： 150億円。  
2018年3月期実績： 136億円、販管費等の状況を勘案、2019年3月期の目標を150億円に。
3. 創業101周年目に「中計目標値を1年前倒しで達成！」を目指し、「NC101作戦」と命名。



# 2019年3月期:業績予想サマリー

1. 2019年3月期は、中期経営計画の最終年度である2020年3月期の目標値を1年前倒しで実現する増収増益計画。
2. 受注高: 2,800億円(対前年+9.9%↗)、売上高: 2,680億円(対前年+9.3%↗)  
 営業利益: 150億円(対前年+10.1%↗)、営業利益率: 5.6%。  
 当期純利益: 83億円 (2018/3期=79億円、+4.3%↗)

(億円未満切捨)

	2018/3	2019/3	
	連結 実績	連結 予想	前期比 増減率
受注高	2,548 億円	2,800 億円	+9.9 %
売上高	2,451 億円	2,680 億円	+9.3 %
営業利益	136 億円	150 億円	+10.1 %
営業利益率	5.6 %	5.6 %	- ポイント
経常利益	137 億円	150 億円	+9.5 %
* 当期純利益	79 億円	83 億円	+4.3 %

※連結の当期純利益は「親会社株主に帰属する当期純利益」を示す。



# 2019年3月期：経営指標の目標（連結）

1. 配当額は13円増配（記念配当10円含む）した2018/3期に、4円を加えた60円/株を目指す。  
 → 配当性向25%を超える配当性向を意識。  
 → 今後も配当性向25%以上を継続したい。
2. 社員の増強も継続。平均年齢もさらに引き下げへ。  
 2019/3期 従業員数は、ミブコーポレーションのM&Aもあり、大幅増。  
 → 新卒採用数：15/4=200名、16/4=161名、17/4=176名、18/4=238名、**19/4=250名**

項 目		2015/3期	2016/3期	2017/3期	2018/3期	2019/3期	
							増減
総資産	億円	1,621	1,652	1,809	▲ 1,849		
総負債	億円	630	606	703	▲ 709		
純資産（含非支配株主持分）	億円	991	1,045	1,105	▲ 1,139		
期末株価/株	円	2,566	2,426	2,603	3,015		
一株あたり配当額	円	▲ 27	▲ 34	▲ 43	▲ 56	▲ 60	4円
配当性向（%）	（%）	▲ (15.3)	▲ (21.1)	▲ (23.5)	▲ (25.1)	▲ (25.2)	0.1ポイント
自己資本利益率（ROE）	（%）	(7.6)	(6.5)	(7.0)	▲ (8.1)		
総資産経常利益率（ROA）	（%）	(4.6)	(6.4)	(7.5)	(7.5)		
新卒採用者数	人	▲ 142	▲ 200	▲ 161	▲ 176	▲ 238	62
従業員数	人	3,003	3,196	3,372	▲ 3,577	▲ 4,018	441
従業員平均年齢	歳	▲ 45.0	▲ 44.4	▲ 43.9	▲ 43.8		

# コーポレートガバナンス報告書について

## ■今年度提出予定のコーポレートガバナンス報告書のポイント 3項目

### 基本原則1 株主の権利・ 平等性の確保

- 招集通知は総会開催の3週間前に発送（開催6/27、発送6/6）、招集通知をTDnetおよび自社HPにて公表（5/29）。
- インターネットによる議決権行使・プラットフォーム提供（前々期から）。
- 英語版の招集通知の作成・開示（前期から）。

### 原則4-10 任意の仕組み の活用

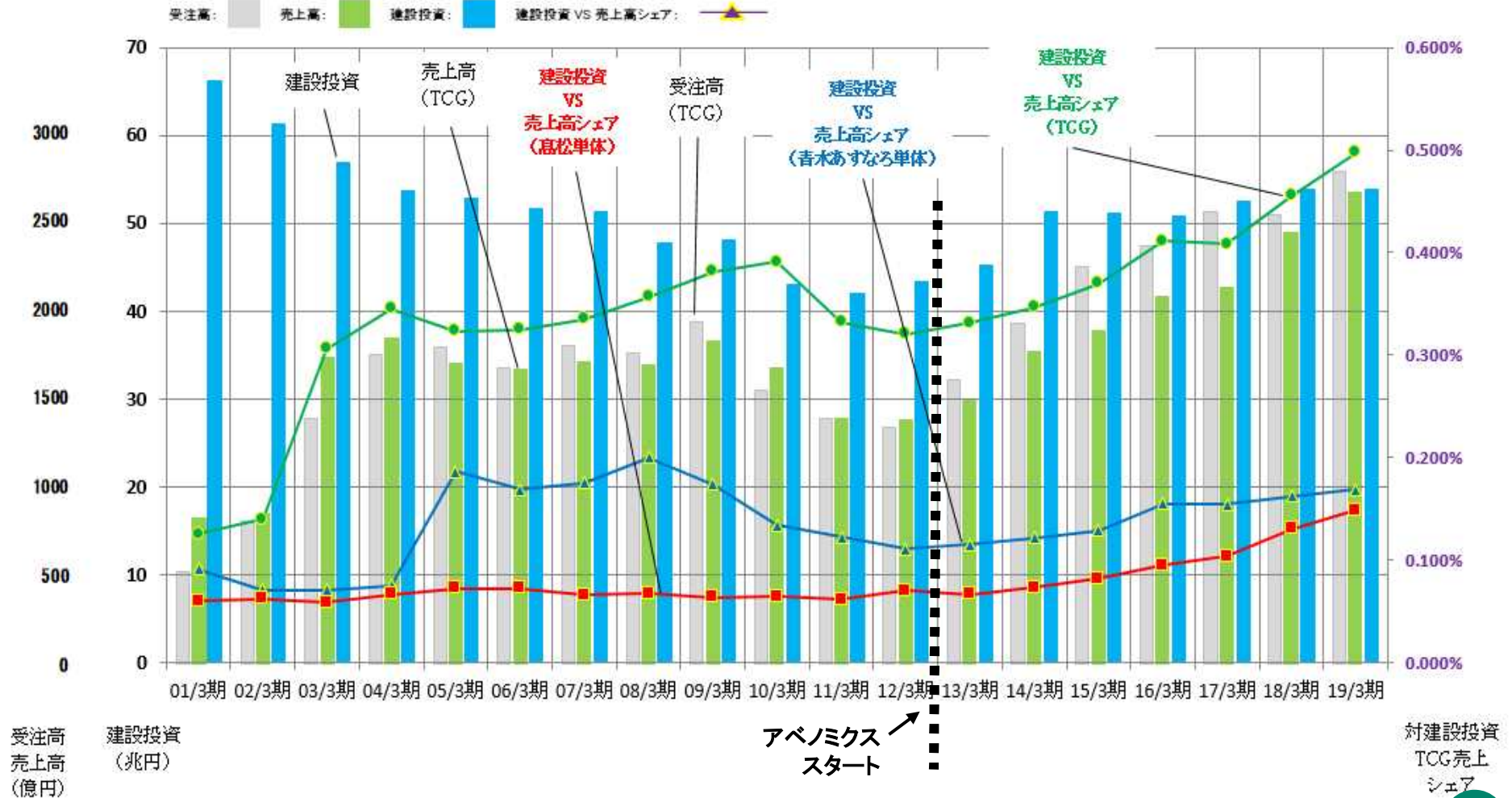
- 公平性と透明性を強化するため、社外取締役2名をメンバーに加えた報酬委員会を設置。

### 原則4-11 取締役会の 実効性確保

- 企業経営経験の豊富な社外取締役2名が有効に機能。
- 業界環境や他社動向・技術動向の情報提供を行い、また、資料は取締役会1週間前に配布し、社外役員への事前説明等を適宜実施。

# 7. 国内建設投資額推移と高松コンストラクショングループの歩み・展望

- 1. TCG⇒ アベノミクス以降、建設市場シェアを伸ばし続けている。
- 2. 高松建設⇒ 成長エンジンとして高成長を志向。2019/3期には青木あすなる建設の売上高に肉薄。





想いを築く。心に響く。

**TCG**

高松コンストラクショングループ